

政務活動調査報告書

調査日	平成29年7月26日（水）
視察場所	香川県 丸亀市
調査項目	「子育て総合窓口」について
視察者名	畔柳敏彦 畑尻宣長
市の概要	面積：311.59 km ² 人口：336,199人 人口密度：1,077.72人/km ² 世帯：140,281世帯 経常収支比率：95.6% 実質公債費比率：8.0%

<概要>

○平成28年10月27日 『まる育サポート～あだあじお～』開設

子育てのことなら“まるっと”おまかせ！『まる育サポート～あだあじお～』として、妊娠期をはじめ0歳から18歳になるまでの子育て期を、長期的にまるごとサポートする相談窓口です。

○運営：NPO法人 グランマールへ委託

（これまでも発達障がい児支援に取り組んできたNPO法人）

○体制：相談時間 月曜日～金曜日 9:00～12:00
13:00～16:00

相談員 ・窓口相談員（教員経験者、保育士経験者）
・専門相談員（医師、大学教授、臨床心理士、学校心理士、弁護士）

相談場所 丸亀市役所 西館3F

相談は無料となっています。



<設置要綱（抜粋）>

丸亀市子育て支援総合相談窓口設置要綱

（平成 28 年 7 月 21 日告示第 100 号）改正

平成 29 年 8 月 10 日告示第 32 号

（目的）

第 1 条 この要綱は、一人一人の子どもが健やかに成長することができる地域社会の実現に寄与するため、妊娠期から概ね 18 歳までの子育てに関するあらゆる相談を一元的に受け付け、支援する子育て支援総合相談窓口（以下「まる育サポート」という。）を設置し、子育て家庭の支援と子どもの健全な育成を図ることを目的とする。

（業務内容）

第 2 条 まる育サポートは、次に掲げる業務を行う。

(1) 利用者支援事業(基本型)

ア 教育・保育施設及び地域の子育て支援事業等を円滑に利用できるよう、利用者の個別ニーズを把握し、それに基づいて情報の集約及び提供並びに相談及び助言を行うこと。

イ 教育・保育施設及び地域の子育て支援事業等を実施している関係機関との連絡、調整、連携及び協働の体制づくりを行うとともに、地域の子育て資源の育成、地域課題の発見及び共有並びに地域に必要な社会資源の開発に努めること。

ウ リーフレットその他の広告媒体を活用し、積極的な広報・啓発活動を実施し、広く事業内容の周知を図ること。

(2) 利用者支援事業(母子保健型)

ア 妊娠期から就学前にわたる母子保健及び育児に関する相談に対応すること。この場合において、母子保健事業に関する専門知識を有する保健師、助産師、看護師又はソーシャルワーカー（以下「保健師等」という。）は、全ての妊産婦並びに子ども及びその保護者又は養育者（以下「妊産婦等」という。）の状況を継続的に把握し、支援経過を記録するとともに、教育・保育・保健施設及び地域の子育て支援拠点施設に出向き、積極的に情報の収集に努めること。

イ アにより把握した情報に基づき、保健師等は、支援を必要とするものが利用できる母子保健サービスを選定し、情報提供を行うとともに、実施する関係機関の担当者に直接繋ぐこと。

ウ 母子保健に関する要支援者に対する支援方法又は対応方針について、関係機関と協力して支援プランを策定すること。この場合において、支援プランの効果を評価し、及び確認しながら、必要に応じて見直しを行い、妊産婦等を包括的かつ継続的に支えていくよう努めること。

エ 支援を必要とする妊産婦等を早期に把握し、支援が包括的かつ継続的に実施されるよう保健師等が中心となって関係機関との協議の場を設けるとともに、ネットワークづくりを行い、その活用を図ること。

子育て支援
総合相談窓口 **まる育サポート**

子育てのことなら「まるっど」おまかせ!

妊娠期をはじめ、子どもが0歳から18歳になるまで、「ハッピーサポート丸亀」と「あだちあじお」がしっかりと連携しながら支援していく取り組みです。

ハッピーサポート丸亀（のまわしセンター内）
☎24-8806

妊産婦出席の出会いの場スタートに、出産後も赤ちゃん訪問や乳幼児健診のときなど、主に就学するまで健康課の地区担当保健師が継続してサポートします。
妊娠や子育てのことなど気軽に相談ください。

あだちあじお（市庁舎 西館3階）
☎25-8282

子育てに関するあらゆる相談に対応します。継続したフォローも可能。相談内容の秘密は守ります。悩みを相談できて良かったと喜んでくれる人が増え中
詳しくは、上記専用ダイヤルへお問い合わせください。

母子健康手帳発行 → 出産 → 赤ちゃん誕生 → 3か月・1歳6か月・3歳の健診受診 → 就学 → 中学生 → 高校生 → 18歳

身近に相談できる人はいますか？ 宿題をしなくて困っているなどちょっとしたことから、子どもの発達に不安がある、学校に行きたがらない、夫婦関係で悩んでいるなど気軽にいことも相談ください。
妊産婦、中学生の子どもを育てており、子育て中の人を応援しています。
家族みんなが元気になるお手伝いをさせていただきます。

あだちあじお 相談員
臨床心理士 入江 麗子

<実績>

平成 28 年 10 月～平成 29 年 3 月

相談件数 電話相談 44 件
来所相談 70 件

相談者内訳

母親	107 件
父親	1 件
祖母	1 件
教師	1 件
養育者	1 件
保健師	1 件
本人	1 件
不明	1 件
合計	114 件

平成 29 年 4 月～7 月

相談件数 電話相談 39 件
来所相談 64 件

相談者内訳

母親	92 件
父親	0 件
祖母	2 件
教師	1 件
育成職員	1 件
保健師	3 件
本人	2 件
不明	2 件
合計	103 件

相談対応者

専門相談員 34 件
窓口対応員 80 件

相談対応者

専門相談員 37 件
窓口対応員 66 件



左の写真は、理事長から直接お話を聞いているところです。

右の写真は、奥に相談スペースがあり、手前に子どもが遊べるようなスペースを設けています。子どもが不安がらないように、それでいてしっかり相談を受けれる工夫がされています。

<所感>・・・畔柳敏彦

平成 28 年 10 月、子育て支援総合相談窓口『まる育サポート～あだあじお～』が丸亀市役所西館内に開設されました。まる育サポートとは妊娠期をはじめ、子どもが 0 歳から 18

歳になるまで「ハッピーサポート丸亀（保健所）」と「あだあじお」（市から委託された NPO 法人）が連携をしていく新たな取り組みであります。

いわゆる、国が進める施策である「子育て世代包括支援センター」のことであります。

この設置にあたり、丸亀市子育て支援総合相談窓口設置要綱が策定されています。

第 2 条（1）では利用者支援事業（基本型）があり、教育・保育施設及び地域子育て支援事業を円滑に利用できるような個別ニーズの把握、情報の収集や提供を行い相談及び助言を行うこと。また、リーフレットその他の広告媒体を活用して、啓発活動・事業内容の周知を図るなど規定している。

（2）利用者支援事業（母子保健型）があり、妊娠期から就学前にあたる母子保健及び育児に関する相談に対応することとされ、母子保健事業に関する専門知識を持つ保健師、助産師、看護師、ソーシャルワーカーはすべての妊婦並びに子ども及びその保護者または、養育者の状況を継続的に把握し、支援経過を記録するとともに、教育・保育・保健施設及び地域の子育て支援拠点施設に出向き、積極的に情報収集に努めること。支援を必要とするものが利用できる母子保健サービスを選定し、情報提供を行うとともに、関係機関の担当者に直接つなぐこと。また、要支援者に対する支援方法や対応方針について関係機関と協力して支援プランを策定し、支援プランの効果と評価し、確認しながら、必要に応じて見直しを行い、妊婦等を包括的、継続的に支えていくよう努力すること、ネットワークづくりを行いその活用を図ることなどが規定されており、一貫した且つ包括的な支援体制をつくることその目的であると理解できる。

さて、この窓口は 10 月から開設して平成 29 年 3 月までの 6 ヶ月の相談件数をみると 114 件であります。徐々に周知をされてきている段階であると思われますので数値的にはこれからその需要は増してくるだろうと考えます。

職員は 6 名でシフトを組んで対応されているようです。窓口相談は教員経験者、保育士（園長）経験者でつまり定年を超えた方たちであります。見方を変えれば経験豊富で熟練された能力と幅広い知識と知恵を持たれた方々が対応されるということで相談者も安心できるのではと感じました。また、専門相談日は予約が必要であります。医師、大学教授・臨床心理士・学校心理士・弁護士の方々がしっかりと対応してくれる体制が整えられております。

私どもに説明をしてくださいました市の委託先 NPO 法人グランマールの理事長は四国学院大学の教授で大木祐治先生でありました。お話をした印象はおだやかで、物腰柔らかく、当然、理知的で包容力が感じられ、このような人物が相談相手であればどんなことでも悩み事を話せるのではないかと思いました。相談事業は信頼関係を早く築けることが肝心であることを考えれば適任であると感じました。他の専門相談員も理事長の人脈で来ていただいているようなので、安心して相談できるのではと心に残りました。

相談される市民にとっては、ここにこれば、どのような困りごと相談も解決のために繋げてもらえるますので、大変ありがたいワンストップの窓口ができたこととなります。今後行政サービスの拡大を図るためには、こうした NPO 法人との連携も選択肢として考える必要があるのではないかと思います。

<所 感>・・・畑尻宣長

丸亀市の子育て支援総合相談窓口について学ばせて頂きました。平成28年10月28日にNPO法人グランマールによる「あだあじお」が設置されました。それまでは、このNPO法人は発達支障がい児支援に取り組んできた経緯があります。お話を聞いていく中で、障がい児と保護者の方々と関わっていく中で、障がい児の相談内容の枠を超えて、様々な問題解決に奔走してきたという歴史がありました。ですので、その当時から、女性の問題、離婚やDVなども関係機関へ繋いできたそうです。そういった、実績もあり、子育てのことなら“まるっと”おまかせ！『まる育サポート～あだあじお～』が市から委託を受けることで運営がしやすくなり、相談体制もさらに充実出来たということでありました。対象を妊娠期をはじめ0歳から18歳になるまでの子育て期を、長期的にまるごとサポートすることで、高校生になってからの素行が悪いなど問題が起きた時に、幼いころの家庭環境など、ごく稀に警察とのやり取りもあるそうです。それは、その子にとって更生への道の参考になるとも伺いました。根底には、ずっと関わり続けるという精神が、職員の方たちにも浸透していると感じました。実績を見てみますと、平成28年10月～平成29年3月の期間では、114件中、専門相談員によるもの34件、窓口対応員によるもの80件。そして平成29年4月～7月の期間では、103件中、専門相談員によるもの37件、窓口対応員によるもの66件でありました。この窓口相談員によるものは、窓口の職員で解決できた事例になります。それだけ、窓口の職員のスキルが高いということもわかりました。その窓口相談員は、教員経験者、保育士経験者が就いており、その時点で相談者は安心して相談し解決していったということです。さらに専門相談員は、医師、大学教授、臨床心理士、学校心理士、弁護士が控えていますので、どのような問題でも対応できるよう体制を整えられていると感じました。以前にも議会で小学校における不登校対策を取り上げた時に、児童の問題と保護者にも問題があることがあり、その対応を取るべきだと訴えましたが、まさしくこの“あだあじお”では、子どもから保護者まで問題解決に取り組んで頂ける取り組みだと思ました。

また、特徴として、あだあじおから、関係専門部署に繋いだ後には、その部署よりフィードバックをもらい、その後の経過も見守っていくようにしているそうです。そういった、アフターフォローをしていく姿勢が本市にも必要ではないかと思いました。0歳から18歳までですので、相談内容も多岐に渡っています。相談員のスキルにより、相談に来た人が満足して帰っていかれるかどうかで、その後、何かあったら、気軽に相談できることで、大きな問題になることが防ぐこともあると思います。そういう意味でも、市民の方から、どこへ相談していいかわからないが、あだあじおへ行けば、関連部署を教えてくれる、相談に乗ってくれる。そういったことが、特に子育て中のお母さんには、大変心強い味方になっているのではないかと感じました。

本市としても、子育て総合相談窓口を設置し、どのようなことでも受け付け、解決に繋げていく、子育てお母さんの駆け込み寺のような事業を展開できるよう、提案をしていきたいと考えています。岡崎市で、安心して子どもを産み、育てることが出来る街になるよう、これからもしっかりと提案し、実現していきたいと思います。

以上